

除幕式で披露される駅伝発祥100年記念石碑  
 (29日午前10時10分、京都市東山区・三条大橋  
 東詰北側)＝撮影・山本陽平



# 発祥の碑 三条大橋に

## 陸上関係者ら除幕式

駅伝 100年

日本発祥の駅伝が今年誕生100年を迎えたことを記念する事業が29日、京都市内であった。最初の駅伝でスタート地点となった東詰北側で記念石碑の除幕式が行われ、陸上競技関係者が節目を祝い、先達の功績に思いをはせた。

「東海道駅伝徒歩競走」は1917年4月、三条大橋から東京・上野までを23区間に分けて開催された。記念の石碑は、高さ1・8

メートル、幅1・2メートル。「駅伝発祥の地」と刻まれており、丸くくりぬいた中央部からは顔を出して記念撮影できるようにした。

除幕式には関係者30人が出席。日本陸連の横川浩会長が「100年で駅伝は『EKIDEN』となり、世界共通の競技になった。先人、先輩の努力で今日がある」と感慨を込め、京都陸協の田中セツ子会長は「これからもランナーに都大路を気持ち良く走ってもらえるよう頑張りたい」と語った。

夜には記念祝賀会が市内のホテルで開かれた。鴨川右岸で予定されていた小学生駅伝は、天候不順で中止となった。

(大竹逸朗)